

「コミュニケーションキャンプ2008」実施報告

1 年次会 金城幸廣 大津展子 加藤敦子 中井 毅
丹羽美由紀 勢田歩美 川上有正 福原行也

本校の行事において重要な位置づけである「コミュニケーション・キャンプ」は今年度で9年目となり、充実した内容となった。今年度は昨年度より内容において変更した部分を中心に、報告を行い、生徒の反応やインストラクターの反応を取り入れ、教育的な効果を検証するものである。

キーワード：森のアドベンチャープログラム、マウンテンバイク走行、サイレント学習、教育的効果

1. はじめに

本校におけるコミュニケーションキャンプは今年度で7年目となり、これまでの報告で示されるように実施時期・実施期間・実施場所等において定着した感がある。

今回は昨年度と比較して、多少変更した点を重点に報告を行い、その効果について検証するものである。本年度の特徴はアイスブレイクにおいて1グループ10人の構成という小人数で行い、森のアドベンチャープログラムにおいてホテル周辺の、まだ雪が残った環境における、トレッキング・クイズアドベンチャー、ソロ（雪の中でゆっくりと過ごす）等、充実した内容を実施したことがあげられます。

2. コミュニケーションキャンプの目的

- (1) 早い時期から人間関係を構築する。総合学科は様々な行事が多く、学ぶべきことも多い、早い時期から構築することにより、運営が容易になる。
- (2) 本校としての教育方針についての「自ら考え、自ら学び、自ら行動する」という基本姿勢を理解する。
- (3) 黒姫高原の自然に触れ、人間と自然環境が調和して生活することを学ぶ。黒姫高原での様々なアクティビティ（活動）を通して、自然の厳しさ、美しさを体験し、人と環境とが調和して生きることの大切さについて考える。

3. 本年度の特徴

- (1) 班編成を10人、1班とした。
- (2) 森のアドベンチャープログラムという名称で新しく取り入れるとともにソロという森の中で静かに考える取り組みをおこなった。

(3) マウンテンバイク走行を小人数で行った。また、マウンテンバイク走行においては走行場面において一部の生徒が列の飛び出して走ることが多くあった。また、走行するグループ内のチームワークの観点から、前を走っているマウンテンバイクを追い抜く際は、ハイタッチで迎える取り組みを行った。

(4) サイレント学習を新しく取り入れ、学習する習慣の定着を目標とした。

(5) 教育局より石隈教授を招聘し、青年期に多い悩みと改善についての講演を行った。

(5)-1 石隈教授の講義概要

* 誰もが通る道～青年期の悩み

① 今どこにいるか・・・発達の視点から

a. 乳児期

基本的信頼感「与えられる存在」

親子関係 自分はどんな赤ん坊であったか。

b. 幼児期

自律性から自発性

動きと自己主張、遊びと想像

保育園・幼稚園のころ・・・どんな遊びをしたか

c. 児童期

勤勉性 「学ぶ条件」

学校での人間関係

知識や技能、集団での生活

自信がついたとき、劣等感を感じたとき

d. 青年期

アイデンティティ 「私とは何者かを問う存在」

思春期

迷う

② 悩みとつきあう

・・・悩み方を身につける、悩みになれる→悩む方が少し育つ、友達、異性、勉強、進路、そして自分
*以下省略

青年に誰にもありがちな悩みを説明し、いかに解決するかという内容の濃いもので、生徒には大変有意義であった。

4. 活動についての報告

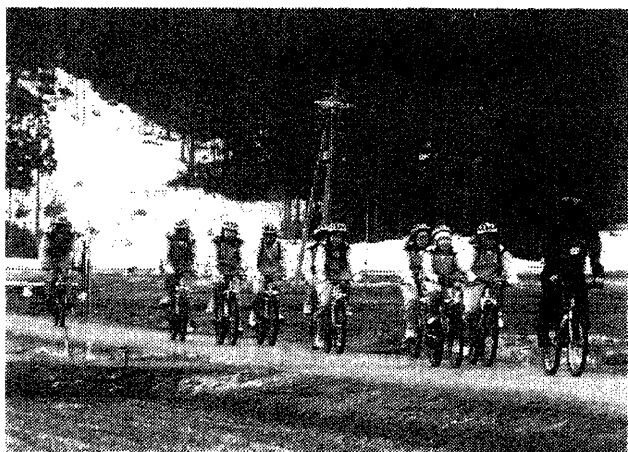
(1) アイスブレイク

体育館で活動で全体の活動、その後各グループに分かれて活動。



(2) マウンテンバイク

ホテルにて、マウンテンバイクの機能説明を受け、走行練習を行い、その後、各グループで野尻湖に向け出発した。



(3) 森のアドベンチャープログラム

今回、ホテル周辺のフィールドを中心に活動を行い、童話館を有効的に利用した。また、新しくソロを取り入れた。霧が多かったことが少し残念であった。



(4) サイレント学習

生徒が真剣に取り組む様子が目に映った。



(5) クラス別レクリエーション

それぞれのテーマで活動を行い、一定の成果を上げた。



(5) クラス対抗レク

各種ゲームを行い、盛り上がった。



5. 日程

日程（全体概要）

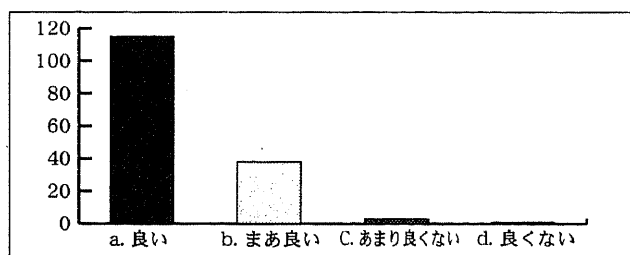
時\日	4月10日（木）	4月11日（金）	4月12日（土）	4月13日（日）
6		起床	起床	起床
7		朝食	朝食	朝食
8	学校集合（8:00） 学校出発（8:30）			テスト 英語・数学（20分×2）
9		班別活動開始 森のアドベンチャー プログラム	班別活動開始 森のアドベンチャープロ グラム	クラス対抗 レクリエーション
10	休憩（横川S.A）	1～8班 マウテンバイク	9～16班 マウテンバイク	
11	黒姫到着 開校式・昼食（持参）	9～16班 （昼食）	1～8班 （昼食）	昼食 閉校式 黒姫出発（14:00）
12				
13	アイスブレイク開始 （体育館）			
14				休憩（横川S.A）
15				
16	アイスブレイク終了	班別活動終了	班別活動終了	学校到着（17:30）
17	入浴	入浴	入浴	
18	夕食	夕食	夕食	
19	講義 副校長小林先生・福原先生 による講話	講義 筑波大学石隈教授による	クラス別 レクリエーション	
20	サイレント学習（20分）	講義・実習 サイレント学習（20分）		
21	点呼	点呼	点呼	
22	消灯	消灯	消灯	

6. アンケート結果

活動後、通常の授業の後にアンケートを行い、下記のようになった。

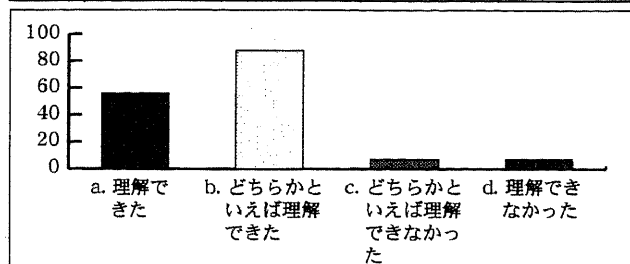
(1) アイスブレイク

	a. 良い	b. まあ良い	c. あまり良くない	d. 良くない
A組	28	8	1	0
B組	26	13	0	1
C組	26	13	1	0
D組	35	4	1	0
合計	115	38	3	1



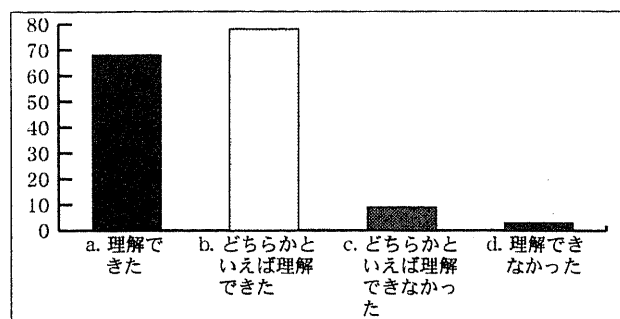
(2) 副校長講話

	a. 理解できた	b. どちらかといえば理解できた	c. どちらかといえば理解できなかった	d. 理解できなかった
A組	18	21	1	0
B組	19	17	1	1
C組	10	22	3	5
D組	9	28	2	1
合計	56	88	7	7



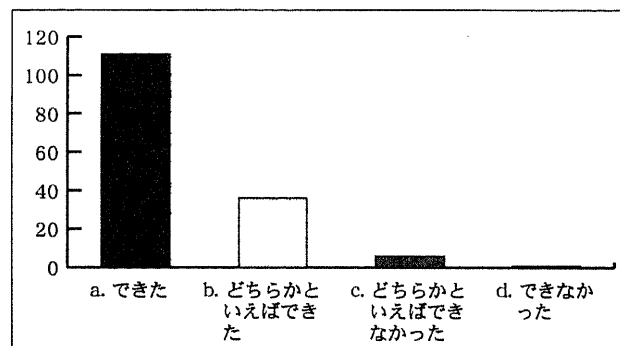
(3) 主任講義

	a. 理解できた	b. どちらかといえば理解できた	c. どちらかといえば理解できなかった	d. 理解できなかった
A組	21	19	1	0
B組	16	19	2	1
C組	17	18	3	2
D組	14	22	4	0
合計	68	78	9	3



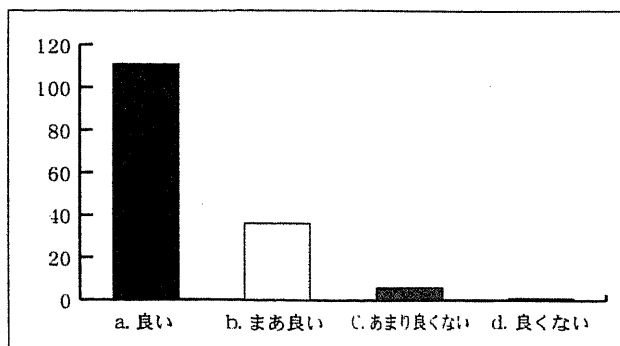
(4) サイレント学習

	a. 理解できた	b. どちらかといえば理解できた	c. どちらかといえば理解できなかった	d. 理解できなかった
A組	28	11	1	0
B組	25	14	1	0
C組	25	11	3	1
D組	33	0	1	0
合計	111	36	6	1



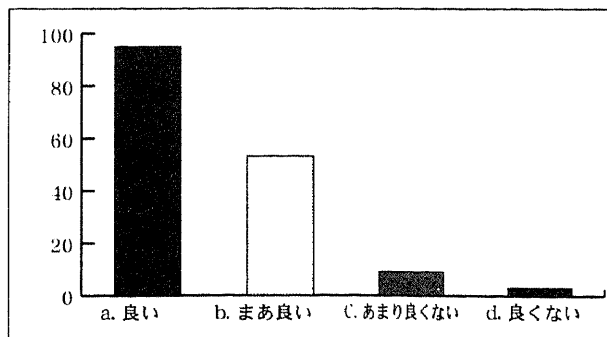
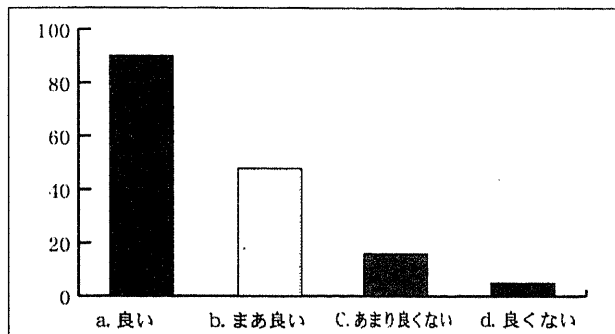
(5) 森のアドベンチャープログラム

	a. 良い	b. まあ良い	c. あまり良くない	d. 良くない
A組	29	11	1	0
B組	25	14	1	0
C組	25	11	3	1
D組	33	0	1	0
合計	111	36	6	1



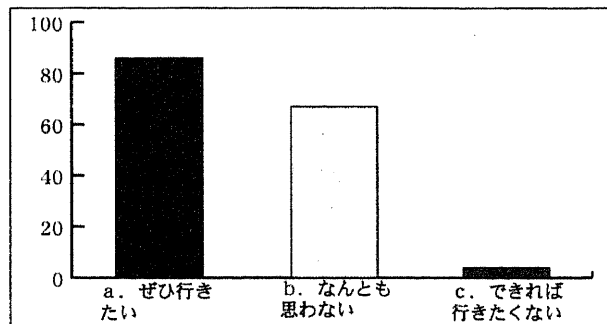
(6) マウンテンバイク

	a. 良い	b. まあ良い	c. あまり良くない	d. 良くない
A組	21	14	5	0
B組	21	13	3	2
C組	18	12	8	2
D組	30	9	0	1
合計	90	48	16	5



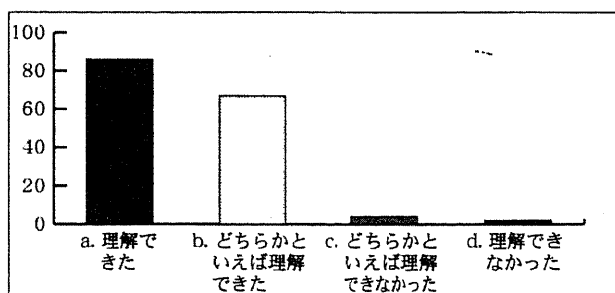
(9) キャンプに行く前の気持ち

	a. ぜひ行きたい	b. なんとなく思わない	c. できれば行きたくない
A組	19	19	0
B組	21	16	1
C組	22	18	1
D組	24	14	2
合計	86	67	4



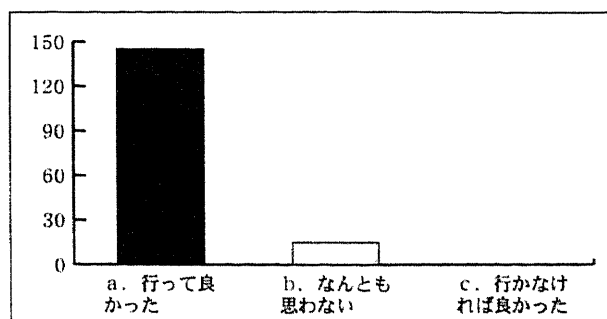
(7) 石隈教授講義

	a. 理解できた	b. どちらかといえば理解できた	c. どちらかといえば理解できなかった	d. 理解できなかった
A組	19	19	0	2
B組	21	16	1	0
C組	22	18	1	0
D組	24	14	2	0
合計	86	67	4	2



(10) キャンプ参加後の気持ち

	a. 行って良かった	b. なんとなく思わない	c. 行かなければ良かった
A組	39	1	0
B組	35	5	0
C組	36	4	0
D組	35	5	0
合計	145	15	0



(8) クラス対抗レク

	a. 良い	b. まあ良い	c. あまり良くない	d. 良くない
A組	29	8	1	1
B組	18	17	4	0
C組	19	19	2	2
D組	29	9	2	0
合計	95	53	9	3

7. 活動の報告（インストラクターよりの報告）

*以下の報告についてはインストラクターより報告書を頂き、抜粋したものです。

(1) 報告1：プログラム名（アイスブレイク）

a. 活動日：08年4月10日（木）

13:30～16:00

b. 対象人数：10名

c. 活動の内容

キャッチ、バントパンパン、ネームトス、はじめまして、ジャンケンコール、ループ、リレー、ヘリウムループ、月面ボール、番号、大縄飛び

d. 生徒の様子

女子が主導権を握る。男子も仲間に入れようと努力している。ループリレーで少ずつハイリスクに挑戦。この頃からグループがまとまり始める。

2回目のヘリウムループでは声かけや全体の空気を読み、行動し、始める。大縄跳びではお互いの持ち場を認め合いながら声をかけていた。

e. 感想

今までの不安（入学式、バスの中）が吹き飛びこんな話ができるようになると思っていた。友達とたくさん会話が出来たという感想がほとんどだった。名前はほぼ全員覚えていた。

f. 次の活動への引継ぎ事項

しっかりコミュニケーション、仲間作りをするには今回（10人）が適切であった。

(2) 報告2：プログラム名（森のアドベンチャープログラム）

a. 活動日：08年4月11日（木）8:30～16:00

b. 対象人数：10名

c. 活動の内容

雪の上の楽しさや、雪の上を歩くと「カロリー消費が高い」とか「脳トレになる」などを話してモチベーションをあげて、一気に一番奥の巨木の森まで行くコース取りをしました。途中きつね山の急斜面を登り、その斜面で「けつゾリ」をするチャレンジプログラムを入れ、みんな真剣に楽しそうでした。また、生徒は巨木を見て感動し、クマのすごい爪痕を見て感動していましたが、そのうち一瞬で前が5メートルほどしか見えなくなり、不安や若干の恐怖を感じた子もいたと思いますが、まさに自然の中での森のアドベンチャーだったと思います。所々五感を使うプログラムを入れながら、沢沿いや峰を降りてきて、源泉の水を飲み比べたりしながら、戻ってきて昼食は中で全員が完食でした。

d. 生徒の様子

とてもおとなしい生徒達でしたが、やるときはやるということで、他人のことを気を使っていて、優しい子達でした。・・・全体におとなしいわりには、問題を答えるときには積極的に発言していて、今後、プレゼンなど上手になっていく予感がある子達です。

e. 感想

もえこが、童話を良く知っているのにびっくり。きつと小さい頃、親にいい教育を受けてきたのでしょうか。このこは、感受性豊かな真面目な子でした。ソロで小川の音を聴きながら、本気で寝ていてみんなで呼びにいて始めて起きました。

8. 生徒の感想より

(1) 生徒A

（森のアドベンチャープログラムより）

今日は、森のアドベンチャープログラムに取り組んだ。雪の積もった山を歩くというのはとても疲れたし、寒かったけれど、今まであまりやったことのない事だったのでなかなか楽しい経験になった。森の中で20分ほど一人で過ごすという体験はでは、静かな森の中で一人で座っていると、気持ちも静かに、落ち着いてくるような気がした。森と人間は大昔から深く関わってきたと言われていたが、人が森に入ると癒されるのは森の静けさと、空気のきれいさと、昔から変らない自然を思い出すからではないかと思った。

(2) 生徒B

（マウンテンバイクより）

今日は、マウンテンバイクに乗りました。はじめて乗ったので最初はすごくこわかったです。ブレーキを両方同じくらいで分けないといけなかったので大変だった。サドルが高くて乗るのも大変でした。下り坂はスイスイ進んで楽しかったけど、上りはキツすぎて何回も歩いてしまいました。歩くのも大変でした。疲れるし足も痛いし手も痛いしやめたいと思ったこともあったけど、あきらめずに最後まで行けて良かったです。

9. コミュニケーションキャンプの効果について

(1) アイスブレイク

例年のことであるが、仲間の結びつきが高まった。このことは、スムーズのクラス運営に繋がっていった。

(2) 森のアドベンチャープログラムについて

自然を大切にすることは今後の生徒の様子を見守ることと検証される。

(3) マウンテンバイク

ほとんどの生徒は初めての体験であった。普通の自転車と異なることをとまどいながら、インストラクターの指導により、機能、操作性を理解し、乗りこなしていった。その後、多くの生徒が達成感を味わい、我慢強さが養われた。

(4) サイレント学習

小テスト、朝学習の小テストや考査前のサイレント学習等効果があった。サイレント学習については一定の効果を上げることができた。コミュニケーションキャンプ終了後の学校生活においても朝の5分間テストにおいて効果をあげた。

10. おわりに

コミュニケーションキャンプは本校において、定着しており、今回、多少の変化を加えたが、効果については例年通り、高いものであったことが予想される。

コミュニケーションキャンプ終了後のアンケートにおいて、各講義についてはあまり理解できない生徒が少なくないが、各種活動については良いが圧倒的に多い。また参加する前は出来れば行きたくないという生徒が少なからずいたが、終了後は行って良かったという生徒が圧倒的に多かった。このことから教育的効果が高いことが立証される。

今回、実施にあたり、様々な面で快く、アドバイスを頂いた関係の先生方、ならびに、ライジングサンホテルの佐藤洋一氏、磯貝克孝氏、実施の直前まで、細かに対応頂いた、金原吉孝氏に深く謝意を表します。

また、実施後、報告書をご提出頂いた、インストラクター各位に謝意を表すとともに報告書の一部を掲載いたしました。

なお、今回、ご多忙中に関わらず黒姫までお越しいただき特別講演を実施された教育局の石隈教授に感謝致します。

【参考文献】

1. 第6回コミュニケーション・キャンプ 報告 2005年度研究紀要
2. 第7回コミュニケーション・キャンプ 報告 2006年度研究紀要
3. 第8回コミュニケーション・キャンプ 報告 2007年度研究紀要

【研究方法】

平成 20 年 4 月 10 日～13 日に行われたコミュニケーションキャンプにおいて、以下のようなアンケートを実施した。実施日は、平成 20 年 4 月 10 日、11 日、12 日である。アンケートのⅠに関しては、個人の 3 日間の変容を形成的に評価するものである。また、Ⅱに関しては、集団活動に関する内容を形成的に評価するものである。1 日目、AB はアイスブレイクなどの活動、CD は 1 日マウンテンバイク走行。2 日目は、その逆の活動を行った。マウンテンバイクは、約 40 km のアップダウンのある地形を走る。よって、生徒には身体的に苦痛を感じる人が多いと考えられる。

コミュニケーションキャンプについてのアンケート

_____ 月 _____ 日 () 第 _____ 日目 活動班 _____ 班
_____ 年 _____ 組 _____ 番 名前 _____

Ⅰ. 本日のコミキャンの活動について質問します。下のⅠ-0～9、Ⅱ-0～10について、あなたはどのように思いましたか。
当てはまるものに○をつけてください。

Ⅰ-0 本日のあなたの活動は何ですか。(アイスブレイク・MTB・森のアドベンチャー・クラス別レクリエーション)

Ⅰ-1 深く心に残ることや、感動することがありましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-2 今まででできなかったことができるようになりましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-3 「あっ、わかった！」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-4 精一杯、全力をつくして活動することができましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-5 楽しかったですか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-6 自分から進んで活動することができましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-7 目標を達成するためにあきらめずにチャレンジしましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-8 友だちと協力して、仲良く活動できましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅰ-9 友だちとお互いに教えたり、助けたりしましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

◎ 下の質問について、「はい」か「いいえ」に○をつけ、「はい」に○をつけた人は、「それはどんなことだったか」
こたえてください。

10 今日、インストラクターに個人的に声をかけてもらいましたか。(はい いいえ)

◆ それはどんなことでしたか。

[]

☆ それは役に立ちましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

11 今日の活動で、友だちに声をかけてもらいましたか。(はい いいえ)

◆ それはどんなことでしたか。

[]

☆ それは役に立ちましたか。(はい・どちらでもない・いいえ)

_____月 _____日 () 第 _____ 日目 活動班 _____ 班

_____ 年 _____ 組 _____ 番 名前 _____

※以下の「班」とは、活動班のことです。

Ⅱ-0 本日のあなたの活動は何ですか。
(アイスブレイク・MTB・森のアドベンチャー・クラス別レクリエーション)

Ⅱ-1 あなたの班は、今日課題にしたことを解決することができましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅱ-2 あなたは、班のみんなで成しとげたという満足感を味わうことができましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅱ-3 あなたの班は、友だちの意見に耳を傾けて聞くことができましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅱ-4 あなたの班は、課題の解決に向けて積極的に意見を出しあうことができましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅱ-5 あなたは、班の友だちを補助したり、助言したりして助けることができましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅱ-6 あなたは、班の友だちをほめたり、励ましたりしましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

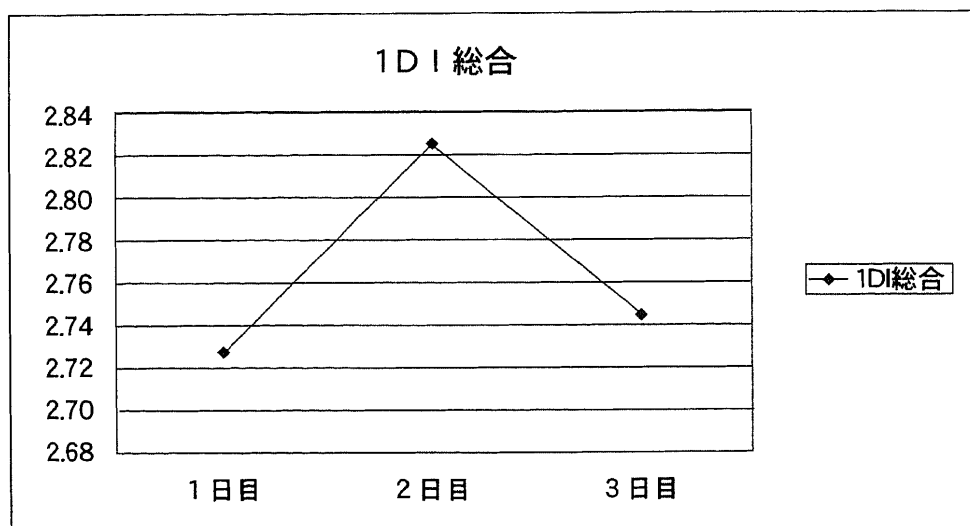
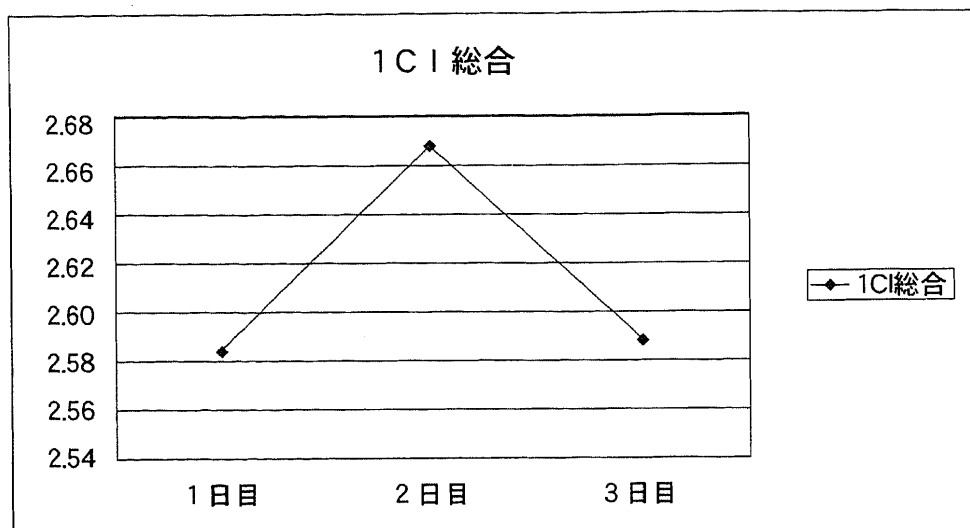
Ⅱ-7 あなたは、班がひとつになったように感じましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅱ-8 あなたは、班のみんなに支えられているように感じましたか。
(はい・どちらでもない・いいえ)

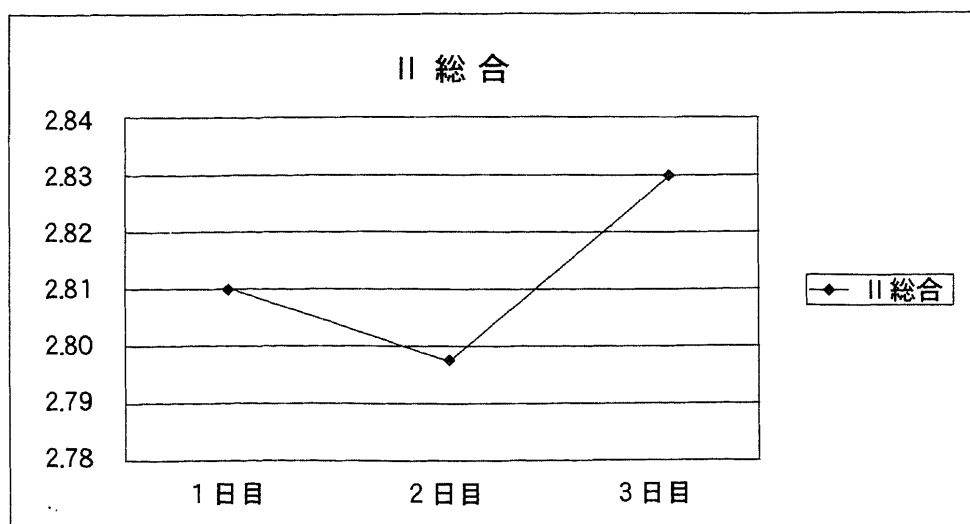
Ⅱ-9 あなたは、今日取り組んだ活動を楽しむことができましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)

Ⅱ-10 あなたは、今日取り組んだ活動をもっとやってみたいと思いますか。

(はい・どちらでもない・いいえ)

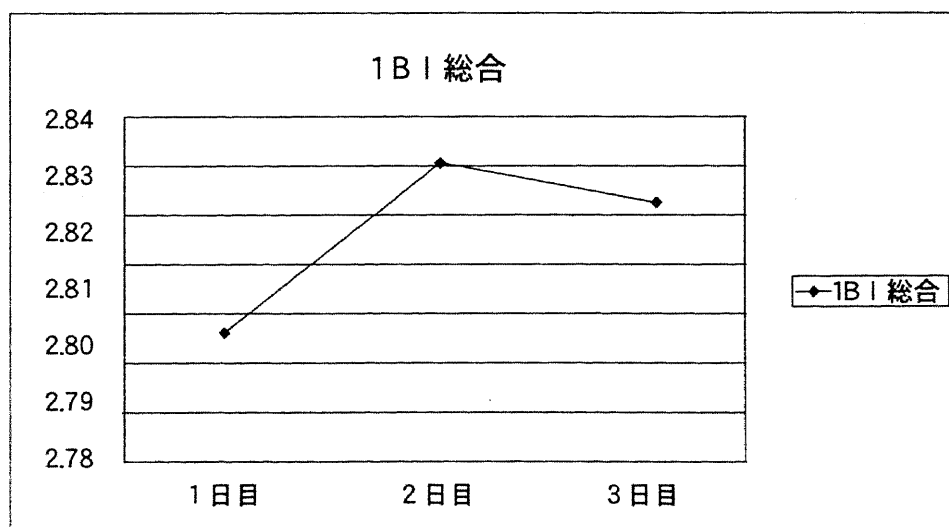
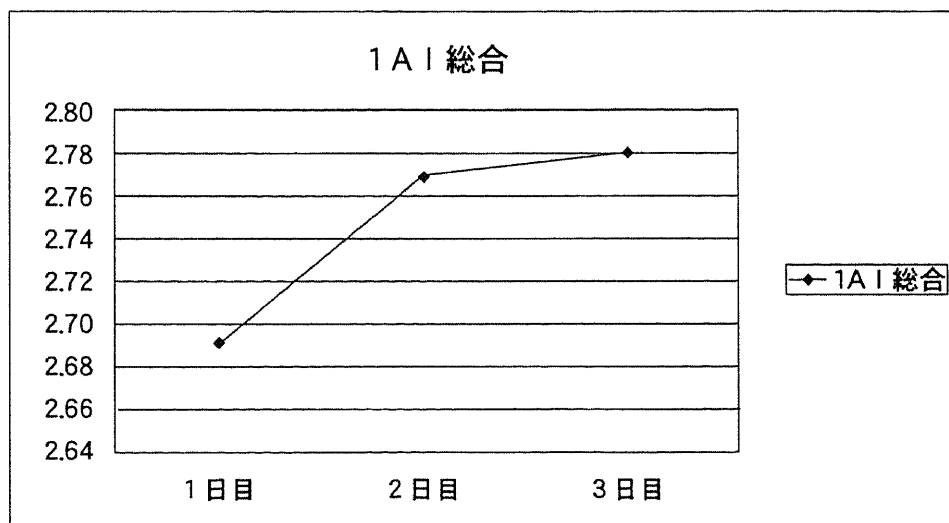
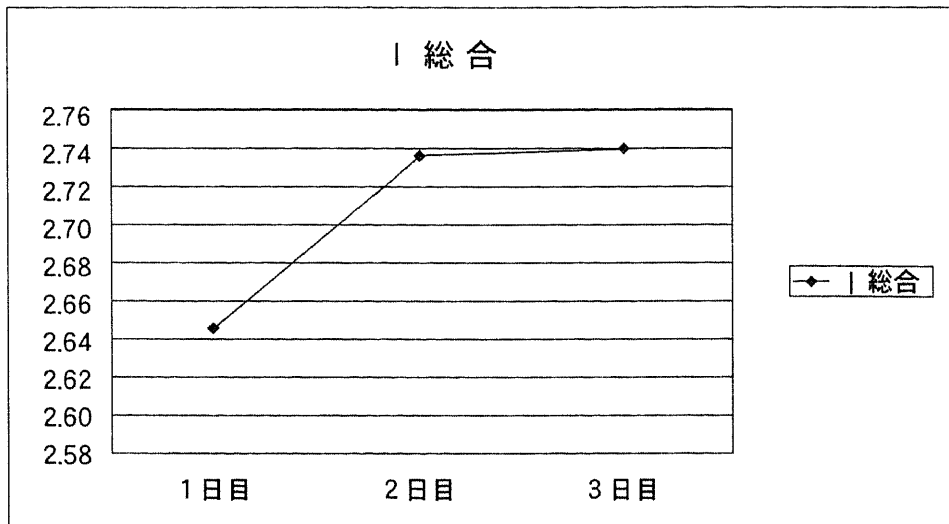


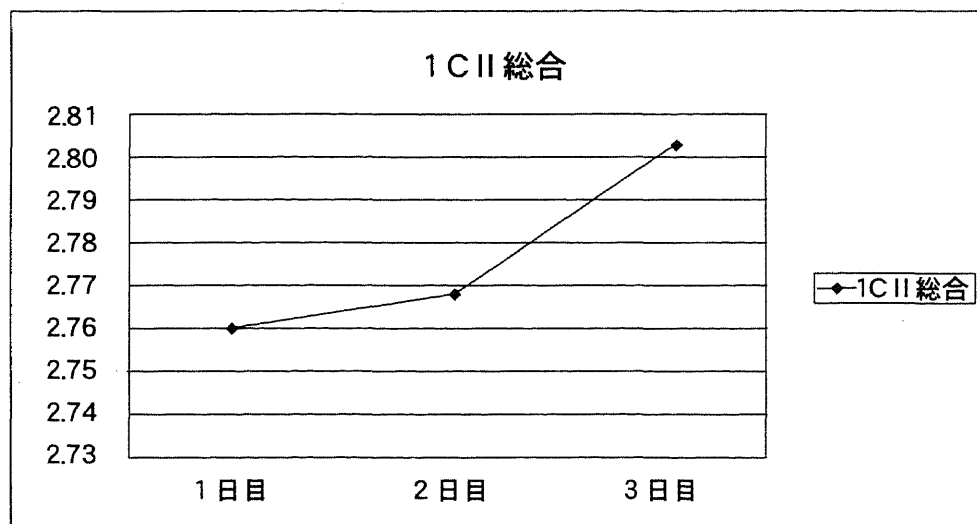
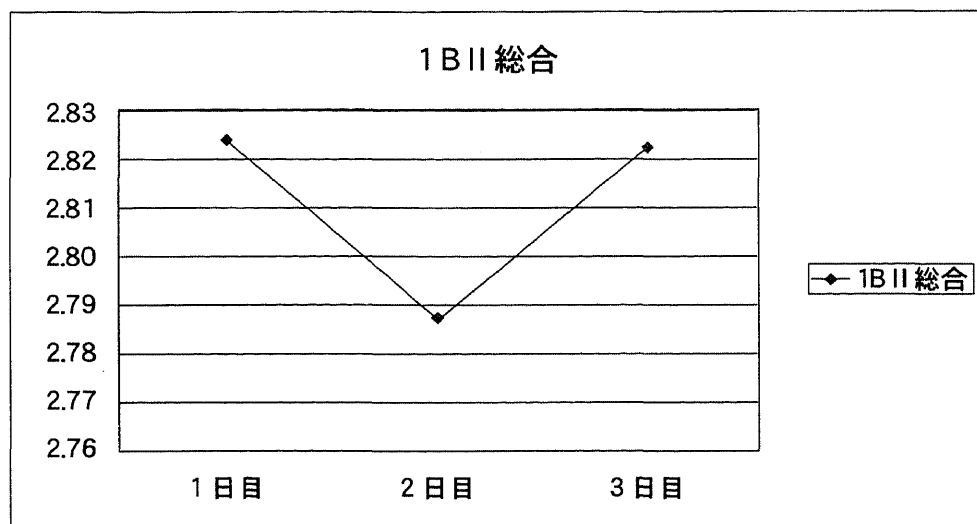
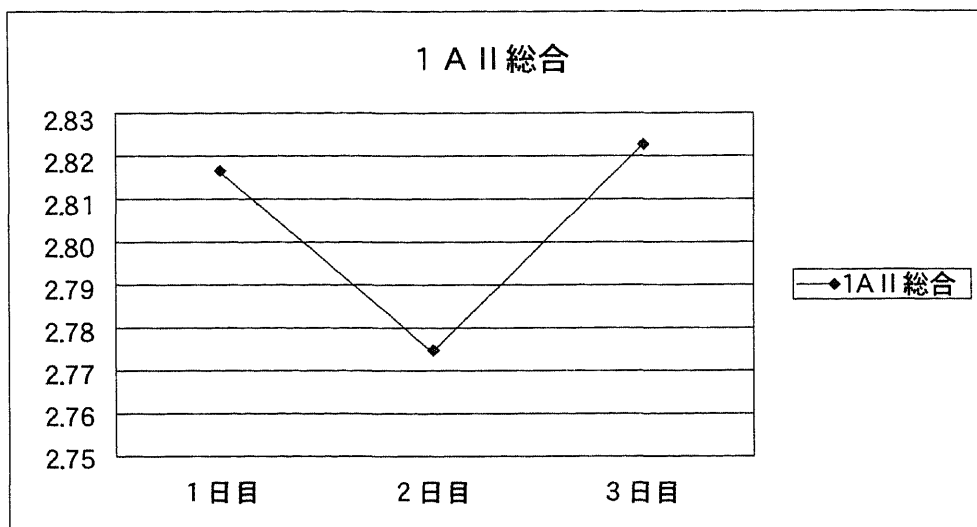
II に関する結果

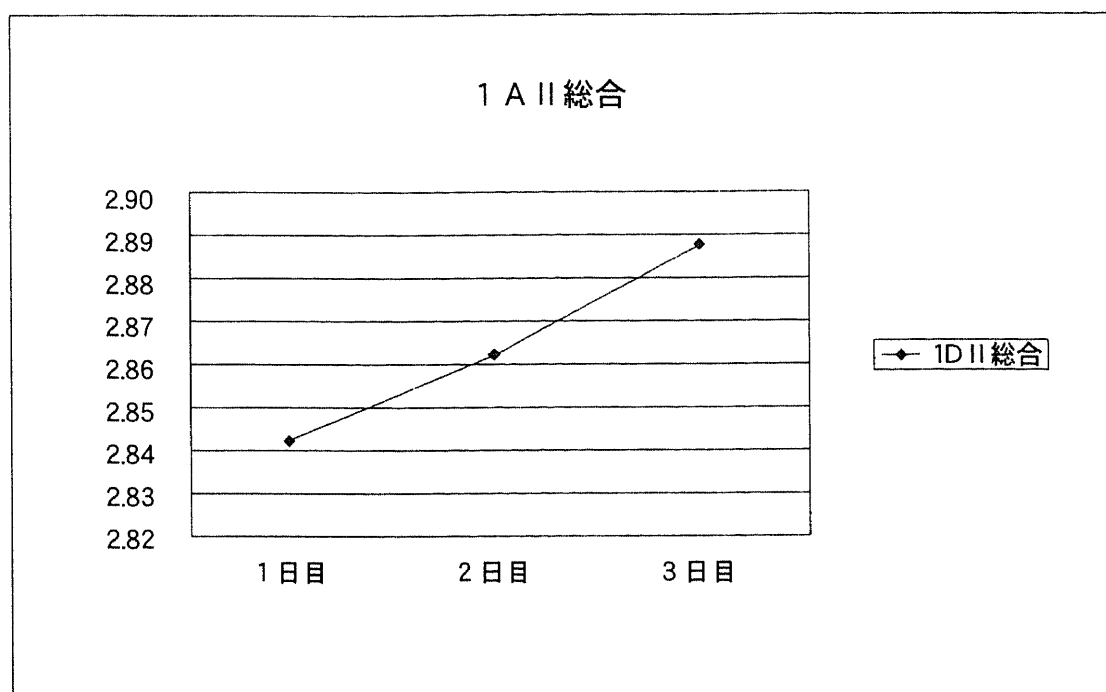


【結果と考察】

I に関する結果。







以上の結果から、入学式直後の生徒はアイスブレイクなどの活動を通して、生徒の主観ではあるが個々の気持ちや行動が肯定的な変化をもたらしていることがわかる。AとBが、CとDがそれぞれ同じようなグラフを示しているのは、AとBが同じ活動、CとDが同じ活動を行っていたからと考えられる。すべてのクラスに共通して言えることは、。に關しても「に關しても評価を下げてしまっている日は、マウンテンバイクに乗車した日ということである。マウンテンバイクは、身体的苦痛が大きく、自分がペダルを進めなければ先には進めないといった自分との闘いのような要素があるため、それが精神にも強く影響したと考える。